

北海道いぶり東部地震及び台風21号 北海道内被災地支援基金(通称「いぶり基金」)

活動報告書

1. 北海道胆振東部地震の被災地の現状・いぶり基金の実績

2020年度(2020年10月～2021年9月)にかけての助成は、第8回の助成1回でした。コミュニティ支援の申請の割合が昨年よりも増してきたことが8回目の特徴となっています。

地震の発災から3年が経ち、復興を感じられる場面が増えてきました。仮設住宅が終わり、復興公営住宅等での新たな生活が始まった方もいます。一方で、コロナ感染症で人との関わりが減り、「仮設のほうよかった」という声も聞こえています。本助成で取り組まれている活動の必要性はまだまだ続いています。いぶり基金は第8回で終了となりますが、災害支援・被災者支援で生まれた町内外の人の繋がりが続いていけるよう後押ししていきたいと思います。

2. 2020年1月～2021年3月までの助成団体一覧

	団体名	事業名	助成額
第5回 総額192.9万円	NP0法人北海道市民環境ネットワーク	厚真の森づくりを、タネ採り～タネ播き～育苗～植栽の一連の活動を行いながら、ふるさとの自然環境と防災について学ぶ	30万円
	北広島市大曲並木3丁目災害復興委員会	今後の復旧工事に向けた情報発信と、みなし仮設で暮らす被災者とも交流会をもちながら、地域の復興を支える	30万円
	まちイキLab	仮設住宅入居者を対象とした、コミュニケーション機会づくり	12.9万円
	イチカラ実行委員会	厚真町民及び町外から訪れる方々が接点を持てる場所を整備	30万円
	NP0ファシリテーションきたのわ	月1回被災3町で開催されている情報共有会議(北の国会議)での会議支援(事前打合せ、進行、板書、議事録、会議設営など)を実施	30万円
	北海道災害復旧復興支援ボランティア	自助・共助を中心とした防災意識の向上を目的に、地域住民との意見交換、ボランティアのスキルアップを実施	30万円
第6回 総額150万円	MUKAWAKARA	むかわ町豊城地区の被災家屋復旧事業	30万円
	NP0法人アグリコミュニティ千歳	大地震の復興に向けての原風景再興と新ビジネス創出の事業	30万円
	北海道足湯隊	足湯サロンを通じた被災者のための心身のケアとコミュニティ形成支援活動	30万円
	NP0法人とあさ村	オーガニック貸し農園「みんなの畑」事業	30万円
	一般社団法人Wellbe Design	思い出の品のサルベージ活動「Omoidori Project」	30万円
	NP0法人日本ノルディックウォーキング学校	ノルディックウォーキングとポールストレッチングで住民の健康づくり活動	30万円
第7回 総額168万円	オフィスあっぱ・ろーど	中学・高校生のためのサードプレイス『Light House』プロジェクト	28万円
	いのちをつなぐチャリティマルシェ	「あびら☆うたごはん」及び「あびら☆援農活動」	20万円
	一般社団法人Wellbe Design	三者連携構築のための「むかわ町復興支援ネットワーク」活動	25万円
	厚真町商工会	震災復興応援の劇団公演を厚真町に誘致する事業	25万円
	NP0ボラギャング	「女性に優しい復興と自立の構築」いぶりからの発信プロジェクト	25万円
	一般社団法人北海道介護福祉士会	災害ボランティア活動/災害ボランティア育成・災害時の感染対策研修	25万円
第8回 総額90万円	石狩思いやりの心届け隊	被災者支援(技術的支援・コミュニティ作り支援等)	20万円
	つむぎ	アツまるコミセン(コミュニティ支援、参加支援)	20万円
	一般社団法人いっぽん	心身のストレス軽減を目的としたマッサージケア活動	10万円
	NP0法人ココ・カラ	被災者の支援の窓口	20万円
	北広島市大曲並木3丁目災害復興委員会	「がんばれ!並木3丁目」～スノーキャンドルを囲んでつなげる輪～	20万円
	NP0法人ニャン友ねっとわーく北海道	人と人をつなぐ音楽で人と町を繋げようプロジェクト	20万円

助成団体の活動紹介

第7回助成 NPOボラギング

「女性に優しい復興と自立の構築」いぶりからの発信プロジェクト」

●事業概要

現地在住のボランティア団体との繋がりを活かし、被災された方々と昼食を囲んだり、ものづくりをしながら交流の場(コロナ感染拡大防止のため少人数制)を作りたいと考えます。仮説を離れた方々にも取り組みを周知し、コミュニティの再構築に努める。

●助成を受けて

現地からの情報をいただきながら、必要な支援を札幌から行うことができました。予定していた札幌からの訪問やイベントは、感染拡大防止に基づき最低限に抑えました。女性の雇用と手仕事をつなげる活動は直接できませんでしたが、復興アート(アイヌ刺繍等)を、こどもを通して広げることができ、今後の手応えを感じています。

北海道胆振東部地震
地震の記憶を風化させない

2021
3/28

復興アート展

主催 NPOボラギング
企画 グローバルアートワーク事業部
協力 北のNPO基金 いぶり基金

厚真・安平おはなし会/展示
14:00~15:00
復興こどもワークショップ
13:30~16:00

TEL 090-1948-9674

会場 新等西会館



「復興アート展のポスター」と「厚真町・安平町おはなし会」の様子



第7回助成 オフィスあつぷ・ろーど

「中学・高校生のためのサードプレイス『Light House』プロジェクト」

●事業概要

- ・厚真町内の中学・高校生を対象とした自主学習スペースの運営
- ・震災での経験を振り返り、子どもたちの声を地域に届ける活動の企画・運営
(例：災害FMと連携した企画づくり、フリーペーパーなどの作成)

●助成を受けて

中学生・高校生のための居場所づくりとして、週1回の自習型勉強会を実施。2020年6月から活動を始め、2021年3月末まで計43回、延べ410名の町内在住の中・高生が参加しました。大学生や一般のボランティア、学校の先生にも活動を支援いただきました。また、活動の中では地域の方々の協力を得て、あつま災害エフエム（2020年12月閉局）での番組作りにも取り組み、子どもたちが選曲した音楽を放送し、パーソナリティにも挑戦しました。これからも、教科の学習だけではなく、様々な人と出会う機会を生み出し、子どもたちの好奇心を育てる居場所づくりを、継続して進めていきたいと思っています。



第7回助成 いのちをつなぐチャリティマルシェ

「あびら☆うたごはん」及び「あびら☆援農活動」

●事業概要

「あびら☆うたごはん」は、安平町早来仮設住宅の住民の方及び仮設住宅退去者の方々を対象に月1～2回の歌と昼食の会を開催。「あびら☆援農活動」は、安平町及び被災地の被災農家のビニルハウス建てや定植、収穫、運搬などの農作業の援助。

●助成を受けて

活動の参加者は札幌など遠隔地に住む人や学生が多いため、交通費の心配なく参加してもらえたことで活動が持続でき、仮設住宅の入居者の方々や農家さんにも喜んでいただきました。社協の方に協力していただいてzoom利用のオンライン参加や歌を歌った動画を送るなど、できることを模索し繋がりを持ち続けました。今後は地元の方々の活動のサポートを中心に、できる範囲での応援を継続していきたいと考えています。



いのちをつなぐチャリティマルシェ



オフィスあつぷ・ろーど

いぶり基金にいただいた寄付総額は2021年8月末まででおよそ800万円になり、第8回の助成をもってお預かりした寄付のすべてを助成いたしました。みなさまからのご支援に感謝いたします。

「いぶり基金」の終了と北海道災害復興支援基金の始まり

2018年9月の胆振東部地震発災と同時に造成しました「いぶり基金」は3年間で、一般寄付をおよそ800万円いただきました。このほかに、冠基金もあわせると胆振東部地震の被災地支援活動のために、およそ3000万円を私たちにお預けいただいたことになります。有効な活用方法は何か、私たちは北海道NPOサポートセンターや、胆振における被災地支援団体が集まる情報共有会議と協力して、助成事業の周知に努めて参りました。

結果として、延べ42団体が助成を受けて胆振東部地震被災地の支援を行うことになりました。これも寄付者のみなさまのおかげです。また、現地で活動する団体のみなさまもまた、決して十分とは言えない助成額にもかかわらず、またコロナ禍という予想外の障壁にもかかわらず、工夫を重ねて支援活動を継続してくださったのおかげです。

発災から3年、いぶり基金はみなさまからお預かりした寄付の助成をほぼ100%終え、その役割を終えました。同時に、胆振東部地震の教訓を、今後に活かしたいという思いから、支援に関わった有志の方とともに、私たちは、2020年2月「北海道災害復興支援基金」を立ち上げました。北海道内のNPOによる災害に即応した支援体制の構築、そして平時における防災、減災の取り組みを促進することが主な目的です。この基金の趣旨を広く社会に伝え、幅広くご支援を募り、災害に備えます。

2020年から今年にかけ、世界的な新型コロナウイルス感染症の流行という、自然災害とは別の災禍に見舞われましたが、依然として西日本を中心に台風や豪雨による自然災害は猛威を振るっています。そのような中ですので、平時から北海道のNPOが力を合わせられるよう取り組まねばなりません。北海道災害復興支援基金へのご支援をよろしくお願い申し上げます。

(北海道災害復興支援基金 プロジェクトチーム一同)



北海道足湯隊



石狩思いやりの心届け隊